

16. 長野県 (Nagano Pref.)

作成者: 田下昌志¹⁾・協力者: 井原道夫・蛭川憲男・丸山潔・清水敏道・小野章・四方圭一郎・小野寺宏文 作成日付: 2002年12月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EW	イ	EN	ウラナミジャノメ	-	-	田立(南木曾町)	1949年に記録があるが、近年の記録がない	草原の森林化や湿地の乾燥化	-
EW	オ,ソ, ツ,ナ	EN	ヒョウモンモドキ	-	-	飯綱高原(長野市), 藤井谷 (松本市)等過去に記録があ る24市町村	1980年代には、4市町村で記録があるが、1990年 代の確実な記録はない	草原の森林化や湿地の乾燥化	浜栄一, 1989. 日本産蝶類の衰亡と保護1:118- 121
EW	オ,ソ, ツ,ナ	EN	オオウラギンヒョウモン	-	-	飯綱高原(長野市), 守屋山 (茅野市)など	1960年代までは比較的多く記録されたが、1970 年以降の記録はわずかで、1990年以降の確実な 記録はない	草原の植生の遷移	浜栄一, 1989. 日本産蝶類の衰亡と保護1:114- 117. 野焼き等により草原を維持する必要がある
EN	オ,ソ, ツ	R	ツマグロキチョウ	-	阿智村等の県南部の地域	赤坂橋(松本市), 木曾駒高 原(木曾福島町)など	1980年代には、わずかな記録があるが、1990年 以降の記録がない	草原の植生の遷移	田下昌志, 1989. 水辺環境5:1-3
EN	オ,ソ, ツ,ナ	R	ヒメヒカゲ	-	松本市, 諏訪市, 軽井沢町な ど	長野市周辺や松本, 諏訪地 域の低地帯の産地の多く	1980年頃までは、各地に見られたが、その後、急 速に減少した	草原の植生の遷移, 採集圧(*), 開発	-
EN	オ,ソ, ツ,ナ	R	クロシジミ	-	北安曇地方や木曾地方など	長野市周辺や松本, 諏訪地 域など	産地はいずれも年次消長が著しく、発生数は減 少している	草原の植生の遷移, 採集圧(*)など	蛭川憲男, 1993. 日本産蝶類の衰亡と保護 2:145-150. 野焼き等により草原を維持する必要 がある
EN	オ,ソ, ツ,ナ	V	オオルリシジミ	-	安曇野や長野県東部地域	伊那谷や松本, 諏訪地域な ど	1980年頃までは、各地に見られたが、その後、急 速に減少した	草原の植生の遷移, 採集圧(*), 圃場整理など	安曇野や御牧ヶ原では、人工的な増殖策が試み られている。小林靖彦, 1989. 日本産蝶類の衰亡 と保護1:97-98. 野焼き等により草原を維持する 必要がある
EN	オ,ソ, ツ,ナ	V	チャマダラセセリ	-	開田高原(開田村), のぞき 高原(大桑村)など	長野市, 松本市など長野県 北部から中部にかけての大 部分の産地	かつては全県に分布していたものと思われるが、 1980年以降は限られた市町村に、わずかな個体 数が生息する	草原の植生の遷移, 採集圧(*)	田下昌志, 1989. 蝶と蛾40(2):85-92. 野焼き等 により草原を維持する必要がある
VU	カ,タ, テ,ニ	R	ミヤマシロチョウ	南アルプスの一部	上信越高原や八ヶ岳, 美ヶ原 高原	北アルプス	1980年頃より個体数が減少している	疎林的な環境の森林化, 開発, 採集圧(*)	長野県天然記念物。小林靖彦, 1989. 日本産蝶 類の衰亡と保護1:57-58. 適度な森林の伐開を行 う必要がある
VU	ケ,ニ	-	タカネヒカゲ (八ヶ岳亜種)	-	本亜種の生息地全域	-	ごく狭い生息地が知られるが、近年になって個体 数は減少している	登山者の踏みつけ, 採集圧(*)	長野県天然記念物。生息域への立ち入り制限を 検討する必要がある
VU	カ,タ, テ	-	オオヒカゲ	-	大部分の生息地	平野周辺の里山の生息地の 大部分	1980年頃より個体数が目立って減少、近年減少 の傾向が加速している	渓流周辺の明るい草地の森林化	適度な森林の伐開を行う必要がある
VU	カ,タ, テ,ニ	-	コヒョウモンモドキ	安曇村等の溪流沿いの生息 地	高原地帯の生息地	長野県南部や低標高地の生 息地	1980年頃より個体数が目立って減少、近年減少 の傾向が加速している	草原の植生の遷移, 採集圧(*)	野焼き等により草原を維持する必要がある
VU	カ,タ, テ,ニ	R	ゴマシジミ	白馬村等の高地帯	大部分の生息地	県南部の生息地の多く	1980年頃より個体数が目立って減少、近年減少 の傾向が加速している	草原の植生の遷移, 採集圧(*)	野焼き等により草原を維持する必要がある
VU	カ,タ, テ,ニ	-	アサマシジミ (中部地方亜種)	-	大部分の生息地	平野周辺の里山の生息地の 大部分	1980年頃より個体数が目立って減少、近年減少 の傾向が加速している	草原の植生の遷移, 採集圧(*)	草原の草刈り等の徹底
VU	カ,タ, テ	-	ホシチャバネセセリ	-	開田高原(開田村), 川上村 など	長野県北部や南部の産地 や、低地帯の産地の多く	1980年頃までは、少ないながらも各地に見られ たが、その後、急速に減少した	草原の植生の遷移	草原の草刈り等の徹底
VU	ケ,ニ	R	タカネキマダラセセリ (南アルプス亜種)	-	長谷村	-	極めて狭い生息地が知られているのみで、1980 年頃土砂崩れにより減少、その後は、少ないなが らも個体群を維持している	土砂崩れにより一時個体が見られなくなったが、 その後は採集圧(*)による影響が働いているも のと思われる	長野県天然記念物。白鳥一樹, 1989. 日本産蝶 類の衰亡と保護1:28-37
VU	カ,タ, テ	-	ミヤマチャバネセセリ	-	大部分の生息地	平野周辺の里山の生息地	1980年頃より個体数が目立って減少している	草原の植生の遷移が原因と思われる	-

16. 長野県 (Nagano Pref.)

作成者: 田下昌志¹⁾、協力者: 井原道夫・蛭川憲男・丸山潔・清水敏道・小野章・四方圭一郎・小野寺宏文 作成日付: 2002年12月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
NT	キ, チ, ト, ヌ	-	ギフチョウ	長野県北部の生息地の多く	下伊那や木曾地方の生息地の多く	-	長野県南部の生息地では、近年、生息数が著しく減少している	開発、里山の森林化、採集圧(*)	適度な森林の伐開を行う必要がある
NT	キ, チ, ト	-	ヤマキチョウ	長野県東部や木曾地域	左記を除く大部分	伊那谷等の県南部の生息地や平地部の生息地の大部分	1980年頃より個体数が目立って減少している。	草原の植生の遷移	適度な森林の伐開を行う必要がある
NT	キ, チ, ト	-	ヒメシロチョウ	長野市南部や長野県東部の生息地	長野県中部の生息地の大部分	長野県南部の生息地の大部分	長野県の南部や中部を中心に減少、南部では、1980年代後半を最期に記録がみられない	草原の植生の遷移	草原の草刈り等の徹底
NT	キ, チ, ト, ヌ	-	クモツマキチョウ (南アルプス・ハケ岳連峰亜種)	南アルプスの大部分	ハケ岳の大部分	-	ハケ岳の生息地は限られていたが、1990年以降急激に個体数が減少した	崩壊地の森林化、緑化工事、卵時における採集圧(*)	長野県天然記念物
NT	キ, チ, ト	-	クロヒカゲモドキ	-	長野県内の大部分の生息地	平野周辺の里山の生息地の大部分	1980年頃より個体数が目立って減少している	森林の鬱閉化、林縁草地の減少	適度な森林の伐開を行う必要がある
NT	キ, チ, ト	-	キマダラモドキ	-	長野県内の大部分の生息地	平野周辺の里山の生息地の大部分	1980年頃より個体数が目立って減少している	森林の鬱閉化、林縁草地の減少	適度な森林の伐開を行う必要がある
NT	キ, チ, ト	-	ムモンアカシジミ	-	長野県内の大部分の生息地	-	1980年頃より個体数が減少している	もともと生息地は移り変わる傾向が強いが、森林化や発生木の伐採、採集圧(*)が影響している	-
NT	キ, ト	-	ウラジロミドリシジミ	明科町、小谷村など	北安曇地方の生息地の一部など	-	近年確認される個体数が減っている	森林の鬱閉化、開発に伴う発生木の伐採	適度な森林の伐開を行う必要がある
NT	サ, チ, ヌ	R	ベニモンカラスシジミ	下伊那郡の生息地の多く	下伊那郡の生息地の一部	-	地形の改変に伴う局地的な減少が認められるが、全体としては安定している	開発、採集圧(*)	採卵の際の食樹の損傷は極力避けられたい
NT	キ, チ, ト, ヌ	R	キマダラルリツバメ	-	木曾地域の大部分	-	1980年頃より個体数が減少している	発生木(クワ)の伐採、採集圧(*)	蛭川憲男, 1993. 日本産蝶類の衰亡と保護 2:141-144
NT	キ, チ, ト	-	ミヤマシジミ	梓川や天竜川上流の生息地の多く	左記以外の生息地の大部分	長野市周辺の生息地の大部分	一部地域を除き、1980年頃より個体数が目立って減少している	草原の植生の遷移	草原の草刈り等の徹底
NT	キ, チ, ト	-	スジグロチャバネセセリ	-	県内の大部分	-	1980年頃より個体数が目立って減少している。	草原の植生の遷移	野焼き等により草原を維持する必要がある
NT	キ, チ, ト	-	キマダラセセリ	-	県内の大部分	-	近年、確実に見られる生息地が減ってきている	草原の植生の遷移が原因と思われる	-
NT	サ, ヌ	R	タカネキマダラセセリ (北アルプス亜種)	人の入りにくい急峻な場所	人の入りやすい溪流沿いの草地	-	近年まとまった個体を見られなくなってきている	採集圧(*)	長野県天然記念物

*減少原因の「採集圧」については、ほとんどの場合、個体数や生息地減少の主原因ではないと思われるが、絶滅をかなり加速する要因となっている

1) 〒380-0943 長野県長野市安茂里差出1863-1